

# ヒルトン・アンプの接続法について

カントリー・スクエアーズ 伊藤 達彦

日本のSD界では、アメリカのHilton Audio Products社のアンプ・セットを使用しているのが主流となっています。そこで、ヒルトン・アンプの接続の方法を具体的に説明をします。

尚、参考までに、これらのHilton社のアンプ及び、Yak Stack社のスピーカー・セットは、尾崎隆敏氏が日本の代理店となっておりますので、詳細はお問い合わせください。

( ☎ & FAX 0426-45-5382 )

これまでに、ヒルトン・アンプによるトラブルの原因のほとんどは、スピーカーの接続法にあったことが判明しております。それは、パーティ等で数時間の連続使用中に、突然にレベルダウンし、音の明瞭度が下がってしまうことでした。

その対策として、これまでは、「アンプが、(1)連続の使用によるアンプの加熱と(2)過度のパワーの出し過ぎ」などと考えられ、アンプの下に特製のファンを設置し、冷やすことでした。ヒルトン・アンプの特性から考えて、これはこれで、有効な方法ではありましたが、それでもトラブルはへりませんでした。このまま無理をして使用した結果、パワーアンプそのものが故障してしまったり、劣化してしまったりする例が目立ちました。

東京SDCの野本氏がヒルトン社に問い合わせをしたところ、これまでの各地のパーティやコンベンション等でのスピーカーの接続方法に誤りがあったと考えられます。要約すると下記のようになります。

Hilton AC-300タイプの許容最低負荷インピーダンスは、 $4\Omega$ である。

Yak Stackスピーカーは、一組 (Full Yak) のインピーダンスが、 $4.5\Omega$  (Half Yakが $9\Omega$ ) である。

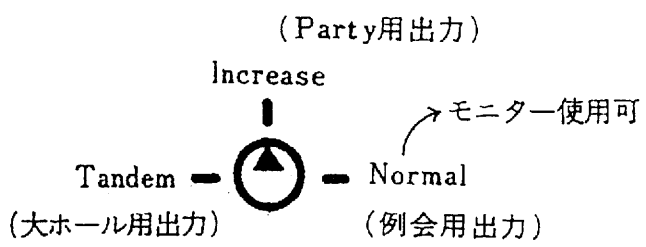
したがって、Full Yak 2組を使用するときには、並列に接続してはならないことになる。

並列にすると、負荷が $2.3\Omega$ になり、長時間の使用をするとアンプが加熱してくるようになる。

# ヒルトン・アンプの接続方法

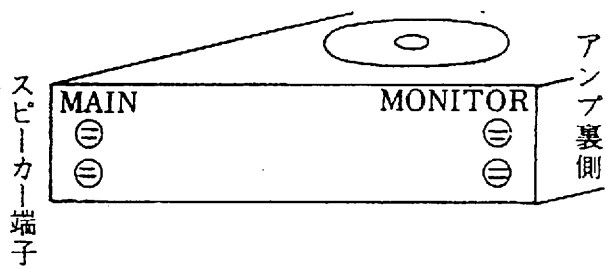
H I L T O N   A C - 3 0 0 B

(図-1)



切 換	出 力	モニター使用
Normal	MAINからで小出力	可
Increase	MAINからで中出力	可
Tandem	MAINと MONITOR 両方で大	不可

(図-2)



①注 Hilton P-アンプは "INCREASE" が 1-2レベルと考え、小さい部屋のために あえて抵抗をつけて 小さくしてゆが "NORMAL" であまの? 音は良くない。

**N O R M A L** ノーマル (150W)  
 例会程度の出力でよい場合。

**I N C R E A S E** インクリーズ (150W)

中程度のパーティ時の出力と考えて良い。  
 アンプの出力は、"NORMAL" 時と同じであるが、レコード等のボリューム調整の幅が、変わってくる。  
 つまり、例会等のときに、"INCREASE" では、音量の幅が狭いので、ちょっとさわっただけでも大きな音となるので、"NORMAL" でよい、ということになる。

**T A N D E M** タンデム (150W×2=300W)

大ホールでのパーティ等での大出力が必要なとき。  
 また、2組以上のスピーカーを接続するときに切り換える。  
 "MONITOR" からもコードを接続する。  
 このとき、"MAIN" と "MONITOR" の両方の内蔵アンプを使用することになるので、アンプの前面にある、「モニター・スイッチ」は、作動しないので注意。

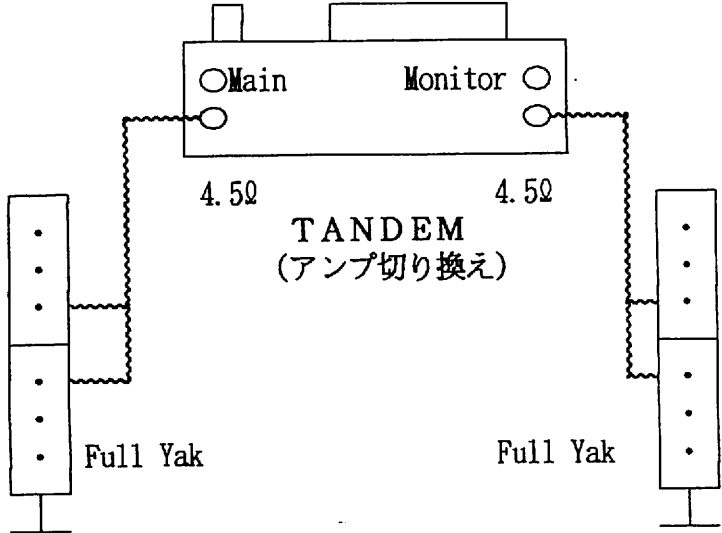
①注 AC-500型は、COMBINE (結合する、連合する)

↓  
尾崎氏より

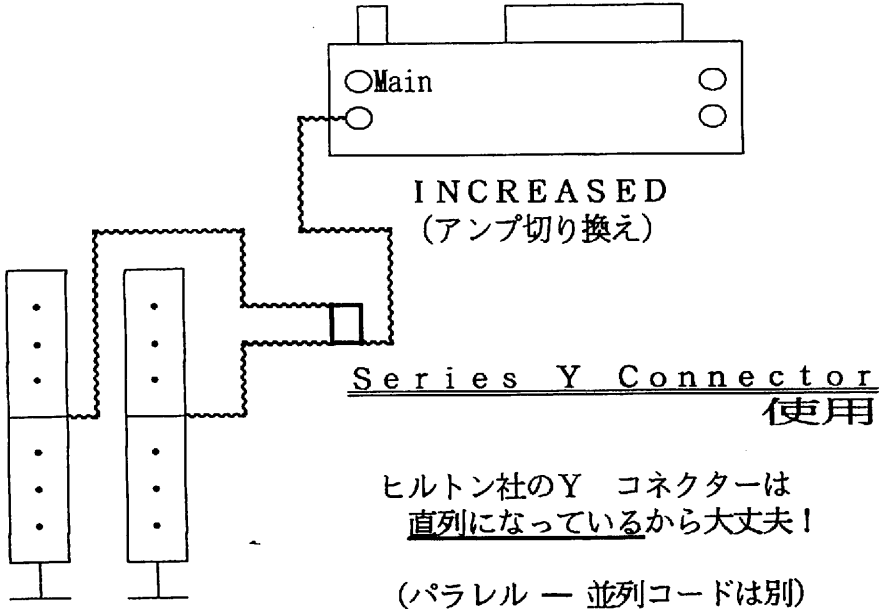
# 接続の例

## 正しい接続の例

(図1)

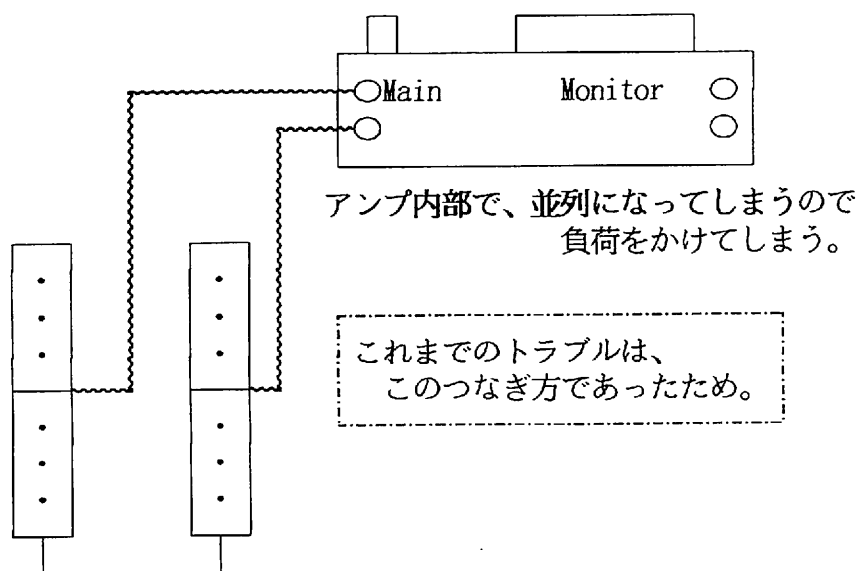


(図2) このつなぎ方は、音量が下がる。

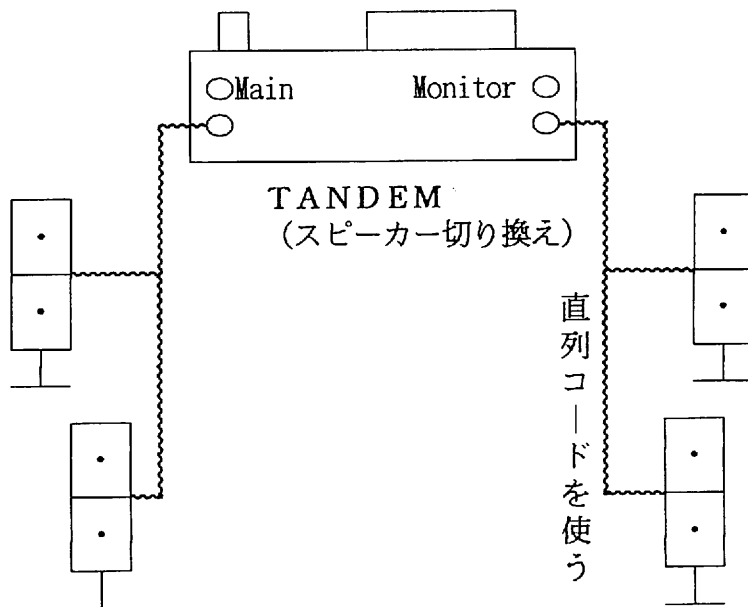


## 悪い接続の例

↙ (図3)



(図4) スピーカー4組の場合  
(コンベンション等の大パーティ)



### 《参考》

Hilton AC-300B/Cタイプ背面の録音用出力は、スピーカー出力から分岐しており、1K $\Omega$ です。レベルは、スピーカー出力電圧の1/100に設定されています。